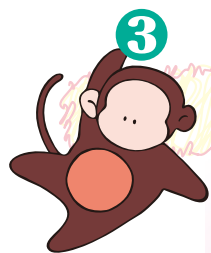


アレルギー外来

vol.4年報/2009.09.01発行



3

アレルギー外来

！食物アレルギーについて

食物アレルギーとは、原因となる食物を摂取した後に、皮膚が赤くなったり、目が腫れたり、げえげえしたり、おなかが痛くなったりといったアレルギー症状がでることをいいます。まず原因となる食物を除去することで、アレルギー症状がでないようにします。しかし、たいてい2-3歳ころになると、上手く消化できるようになり、腸の免疫も成熟して、今までアレルギー症状がでていたものでも食べられるようになります。

この状態を「耐性ができた」といいます。「耐性ができる」まで原因食物を体の中に入れない、食べさせないようにするのが、現在のアレルギー治療の主流です。治療するためには、まず原因となる食物を調べるために、どのようなものを食べたのか、加工食品のなかに含まれているものなども詳しくお話をお聞きし、血液検査などもします。その検査結果と年齢を参考にし、除去をする食物をきめていきます。アレルギーの強いお子さんの場合には、数品目の除去が必要になることもあります。しかし、疑わしいものすべてを除去すればいいというものでもありません。成長に必要な栄養もしっかり取る必要があります。除去をする場合は自己判断で除去をせず、外来で相談してください。



昨年、小学校に入っても除去の必要な重症な子どもに対し、今後期待できそうな論文が出ました。神奈川県立こども医療センターのアレルギー科/栗原和幸先生が書かれました。内容はこれまで卵を食べられなかった小学生6人を対象に症状が出ない程度の微量から徐々に量を増やし積極的に食べさせることで、結果として食べられるようになったというものです。これまで食べることのできなかった卵、ケーキ、ラーメンといったものが食べられるようになったのです。本人だけでなく、家族の喜びもさぞ大きかったことと思われます。今後、卵以外でも応用できるのか、低年齢でもできるのか、少しずつ解明されてくると思います。近い将来にできるかわかりませんが除去ばかりでなく摂取しながらアレルギー治療する時代がくるかもしれません。

参考文献：栗原和幸 食べれば、食物アレルギーは治る—True or wrong?
日本小児アレルギー学会誌 第22巻第5号 737-744, 2008

！アトピー性皮膚炎の子への漢方湯

アトピー性皮膚炎を持つお子様の皮膚は、皮脂量や水分保持能力がともに減少している「ドライスキン」という状態になっています。これらは皮膚バリア機能の低下に密接に関係し、アトピー性皮膚炎の増悪因子のひとつと考えられています。

そこで、皮膚の水分保持能力を高める作用のある生薬【地黄・当帰】を使った入浴方法があります。

薬局で購入された地黄・当帰を
1回分各3g(ティースプーン2杯ぐらい)
に分けて使用します。

1回分ごとにお茶パックに
いれておくと便利でしょう。



方法(煎じ方)

1. アルミのやかん・耐熱ガラス・ホーロ
ー鍋に水500～600mlを入れる。
2. 水の中に各3gに分けた地黄・当帰を入れ、ふた
をせずに軽く泡立つ程度で約半分量になるまで
弱火～中火で煮詰めます。
3. できた薬湯をすぐに浴槽内に入れてください。
・入浴時間はお好みで5～10分
・少なくとも1ヵ月は続けましょう。
・入浴後、体の薬湯を洗い流す必要は
ありません。

注意！

1. 他の入浴剤との併用は
しないでください。
2. 生薬は常温保存です。
湿気に気をつけましょう。
3. 鉄製や銅製の鍋は有効成分
が変質することがあるので
使用しないでください。
4. 入浴の際の湯は毎日
とりかえましょう。

